

ASSAL 便り



積女ASSAL かんさい 2019年度 現場見学会

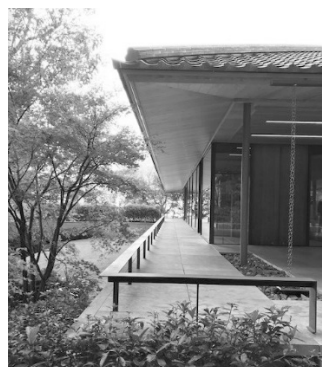
開催日時：2019年12月10日(火) 15:00～16:30

「公益財団法人 竹中大工道具館」の見学会を開催いたしました。

出席者	No.	参加者氏名	備考	No.	参加者氏名	備考
	1	品田さん		5	力武さん	新規
	2	杉山さん		6	北野	積算協会
	3	平川さん	新規	7	塩谷	積算協会
	4	八田さん				

※ ■ は新規参加者。記載は50音順。

公益財団法人 竹中大工道具館 兵庫県神戸市中央区熊内町7丁目5-1 TEL 078-242-0216



新幹線の新神戸駅（＝神戸市営地下鉄、新神戸駅）から徒歩でおよそ5分、静かな佇まいの中に「竹中大工道具館」があった。

丁度、庭のモミジの紅葉が建物と相まって、外観を引立てていてすばらしい。

建物は、外観から察するところ平屋の様な印象を受けるが、華やかな存在感をなくする為に、地下2階・地上1階となっているようだ。

ボランティアスタッフの方の詳細な説明を受けながらの見学。集合時間の関係で15:00～16:30という時間になってしまったが、実はじっくり見ていこうとすると2時間あっても足りないぐらい。



大工道具の始まりは、石器時代に遡る。石器の斧で細目の木を切っていたが弥生時代になって鉄の斧が出始めて、大木の伐採も可能になったようだ。

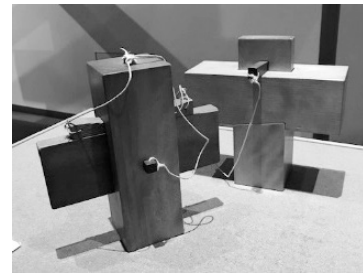
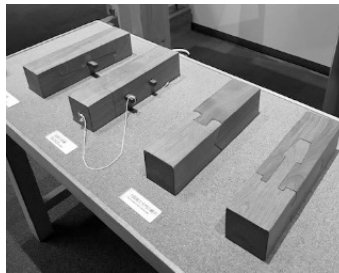
中世から現在に至る大工道具の数々に目をみはり、昔に作られた大工道具が、現在でも同じようなかたちの大工道具として使われていることに感動！



ノコギリ、ノミ、カンナ、金槌、墨壺、墨差し…等、現在も形が変わらず使われている。
しかし、昔の大工道具の種類の多さに驚いた。
外国の大工道具の展示もあったが、しかし日本の道具の比ではない。日本の大工の繊細さが道具に現れているのか。



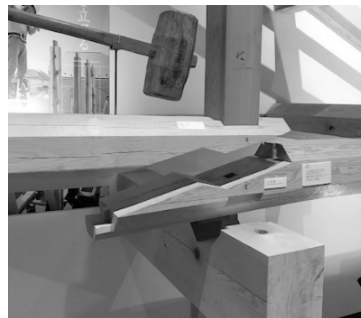
千年は大丈夫な「和釘」。節があったら避けて入るらしい。



継手・組手のいろいろが展示してあった。

お寺や神社の和風建築に使われる継手や軒先の斗組（ますぐみ）の現寸実物が展示してあった。

無駄な部材が無く、この機能美が美しい。見事！



大工道具を作る鍛冶工房の展示エリアで、鍛冶作業にまつわるさまざまな用語の紹介を受けたが、現在も使われる言葉の由来に大工道具が関わっていたとは驚きだった。

「焼きを入れる」＝焼入れをする
「焼きが回る」＝焼入れ温度が高過ぎる
「なまくら」＝焼入れ温度が低い
「相槌を打つ」＝親方と弟子が交互に槌を打つ
「しのぎを削る」＝刀の背を削る



大変勉強させていただきました。
ありがとうございました！